

# 2022年度 国語入試問題

(2022年2月6日実施)

座席番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## [注意]

1. 解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入してください。
2. 問題用紙および解答用紙は持ち帰ってはいけません。
3. 使用用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のものは不可）とし、それ以外の使用は認めない。

解答用紙はマークセンス方式および記述式です。

1. 解答用紙は、汚したり折り曲げたりしないこと。
2. マークの記入に際しては、解答用紙に示されたマーク記入例に従って黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、HB、B）で正確に記入すること。
3. 記入間違いは、消しゴムで完全に消してから記入すること。
4. 座席番号記入欄には座席番号を、解答欄にはマークを記入する、あるいは記述すること。  
氏名記入欄には受験票記載通りに、氏名・フリガナを記入すること。

## 問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は単一の「型」で簡単に表現できるほど単純ではない。抽象化されたモデルというのは、その人物の一面を代表しているにすぎない。それ以外の面も必ずある。また、単純な「型」になるほど、適用範囲が広くなり、同時に、多くの単純な「型」を組み合わせて、現実に近いようなアプローチもできる。

ある一人の人間が、Aという型と、Bという型を(a)アワセ持っている、といったことはごく自然にあるだろう。どういう場合にAが現れ、どうなればBになるのか、という(b)ブンセキもできる。

人間は、ほとんどの「型」を大なり小なり持っていて、その比率や(c)ユウセン度が違うだけだ、というような考えに行き着くことになるかもしれない。となると、もともとは個人を表していた型が、人間の大多数に見られる傾向だということもある。抽象的でシンプルに考えていくと、そういった構成分子のようなものが沢山見つかるだろう。遣伝子のように、それらの組み合わせで、人間のバラエティができる、といったふうに考えることも面白い。

シンプルなパーツを組み合わせて、どんな(d)フクザツなものでも作れる。パーツが抽象的でシンプルであれば、そういったことが可能になる。レゴ<sup>(注)</sup>・ブロックのようにパーツがシンプルなものほどAが高い。具体的でないからこそ、あらゆるものに使えるのである。

ところで、ある人物を観察し、そこから幾つかの抽象的な「型」をイメージしたとしよう。だいたいの型から逸脱した言動に出ることがある。こうしたとき、「ああ、この人は計り知れないところがあるな」と感じられるし、つまりは、モデル化できない、現実の人間の「深さ」のようなものを意識することになる。

このように、モデル化できないということも、「人間の深さのようなもの」として抽象できる。一方では、簡単にモデル化できる人物は、「浅い」人間に見えるだろう。それはつまり、ほとんどどういうふうに行動するか、どう考えるかを読まれている。ある意味では単純で扱いやすいけれど、深みがなければ、人間としてつき合くと、やや物足りなく感じるかもしれない。

(1) 具体的な思考しかできない人は、最初の印象が悪ければ「嫌い」になり、良ければ「好き」になる。でも、いつかはやはり「嫌い」になる。浅いも深いもわからない。「嫌い」になると、すぐに離れてしまうから、「好き」に戻ることは滅多にない。感情的な判断とは、こういうものだ。明らかに、一面だけで捉えているので、本当の価値を見逃すことが多い。

ここで大事なことは、人間を抽象的に捉えていなければ、その人間の深さが見えてこないという点である。これは、人間の思考についてもいえる。人の考えというのは、言葉でしか伝達できないものだが、とにかくそれを聞いたとき、「この考えはなかなか深いな」と感心することがある。この深さというのは、これまでにモデル化された自身の型に簡単には当てはまらない未知のものがまだほかにありそうだと、という意味であり、もっと言えば、「その方面の抽象化を自分は見過ごしていた」ということでもある。

(2) 抽象的に人を見る人は、好き嫌いで人を判別せず、「この人からなにか自分に得られるものはなにか」という興味を絶えず持っているものである。好き嫌いだけで判断していないために、「思慮深く」なる。そして、この「思慮深さ」というものは、思慮が浅い人にはまったく認識さえできない。よく、「面白いアイデアを聞いたとき」、「なるほど、それは思いつかなかった」という感想を(e)イダくことがある。これは、「考えたけれど、採用しなかった」ではない。思いつかなかったわけだから、その方向へは自分は視線も向けなかった、発想さえ持たなかった、という意味である。では何故、「なるほど」といった感想を持つのだろうか。

自分が考えなかったものであっても、一瞬にしてそれが妥当であり、魅力があり、使えそうなことが判断できるのは、もともと抽象的な「型」を持っていた証拠である。「ボール」だけを探していた人に、ボールではないものを見せても、「なるほど」とは思わない。「ボールのようなもの」を探していた人は、自分で見つけられなくても、人が「これなんかどう？」と示したものに、(3)「あ、それだ」と気づく。そういうときに、「なるほど、それは思いつかなかったな」と感じるのだ。

したがって、発想力が不足し、自力では思いつけない場合でも、「ののようなもの」という抽象的な目で探してさえいれば、人が言ったこと、本で読んだことなど、外部から飛び込んでくる情報の中に、待っていた答を見つけることができる。具体的なことに囚われていると、いくら沢山のインプット情報があっても、使えるものを見逃してしまうだろう。

そして、(4) 抽象的思考をする人は、どんな人間からでも、自分の利益になる発想を拾えることを経験的に知っている。それだからこそ、自然に人の話に耳を傾けるようになる。「こいつの話なんか聞いてもしかたがない」とか、「この本は読んでもなにも得るところがない」といったふうには考えないし、さきほども書いたように、「好き嫌い」で情報を遮断するような先入観も持たない。素直に見て、素直に受け取ることができるのは、どんなものにも自分の役に立つようなヒントが見出せる、という極めて単純な理由のためだ。

結果的に、これができる人間は、他者との関係を大事にするだろうし、たとえ自分と意見が違っていても、相手を尊重するという姿勢がごく自然に取れるようになる。さらに、そういう人は、他者から信頼されるし、べつに自分を売り込まなくても、自然に人から親しまれるポテンシャルを持っている。

このように、客観的で抽象的な考え方ができる人は、人間関係を築く上で無理をすることが少ない。その考え方によって、自分も我慢をしなくて済むから、気が楽になるし、その素直さ故に、X期せずして周囲の信頼を得ることもなる。相手を尊重する姿勢というのは、日常の生活の中でも、なにげない仕事や言葉遣いに表れる。それが周辺の人たちに浸透し、結果として、友人もできやすいし、また人から推されてリーダー的な立場に立たされやすい。こういった傾向も、人間を観察することによって得られる、抽象的な「人間の型」の一つといえる。

たとえば、お客さんにはこう接しなさい、というマニュアルを作り、そのとおり従うように店員を教育すれば、どの店員も同じように笑顔を作り、同時に頭を下げ、似た台詞ばかりで対応するようになるだろう。そのお店に来る客は、そこで長時間過ごすわけでもないし、店員と友達になりたいから

来店するのでもないから、これはこれで間違っていない。ただ、「感じの良い店員だな」と思うのは最初のうちだけで、これが度重なると、せいぜい「よく教育されているな」と感じる程度だろう。マニュアルというのは、どんな場合にどう対処するかが具体的に書かれているので、それに従えば、みんながY一本調子になる。

一方、「B」と抽象的な教育をしたとしよう。これは、言葉でいえば一瞬で終わりであるが、そこから店員たちは、具体的にどうすれば良いのか考えなくてはならない。だから、具体的なマニュアルに従わせる場合よりも、時間がかかり、効率が悪く、また少なからず各自の能力を要求することになるだろう。だが、もしこの抽象的な指示が「理解」できた店員は、自分の意思で客に対応する。そういった「質」というのは、客から見た場合、上手くすれば気持ちの良いものに感じられる。また、店員自身が成長できる可能性も大きくなるだろう。

具体的な指示は、そのとおり従えば文句は言われないので、なにも考えることなく、ただそのまま実行すれば良い。

I しかし、指示が抽象的になるほど、どう行動すればその指示に合致するかを考える必要があるし、また、何故そんな指示が出たのか、さらに上のレベルの理由や精神まで想像することにもなる。

II お客を丁寧<sup>ていねい</sup>に扱わなくてはならない、その理由は何か、という具合にある。

III そこまで理解しないと、自分のしていることの意味がわからない。

IV 非常に人間らしい、有能さを期待される。

V

もりひろし 森博嗣 『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』

(注) レゴ・ブロック……デンマークの玩具会社「レゴ」が販売する、プラスチック製の組み立て玩具。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

- (a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) アワセ 1

- ① 弟のオウヘイな態度を注意する。  
② 体育館に椅子をヘイレツに配置する。  
③ 部長がセンター長をヘイニンする。  
④ 長時間の重労働にヒヘイする。  
⑤ ヘイメイ塞聴の状態から抜け出す。

(b) ブンセキ 2

- ① アンケートから市民の意向をセキシユツする。  
② ジセキの念に駆られて反省する。  
③ 外国製品をハイセキする運動が活発になる。  
④ セキベツの思いが胸に迫って苦しい。  
⑤ 相続のためにコセキの情報を取り寄せた。

(c) ユウセン 3

- ① 天気が悪くてユウウツな気分になる。  
② 経験者をユウグウして採用する。  
③ 係り員のユウドウに従って移動する。  
④ 決断に一週間のユウヨを与える。  
⑤ シユウを決する戦いに挑む。

(d) フクザツ 4

- ① 正体を隠すためにフクメンする。  
② 昆虫のフクガンを観察する。  
③ 感情のキフクが激しくなる。  
④ バランスを考えてフクサイを添える。  
⑤ 山のチュウフクで休憩をとる。

(e) イダク 5

- ① 約束の時間に取り引先をホウモンする。  
② ホウマンな経営を見直す。  
③ 細かいキホウが発生した。  
④ 古いビルの天井がホウラクした。  
⑤ 新学期のホウフを述べる。

問2 空欄 A に入る最も適当な言葉を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

6。

- ① 実用性
- ② 汎用性
- ③ 日常性
- ④ 専用性
- ⑤ 再現性

問3 傍線部(1)「具体的な思考しかできない人」とあるが、そのような「人」はどのような行動を取ると考えられるか。その具体例として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

7。

- ① 読書が趣味であるのに、友人から「読書なんてつまらないよ」と言われて不愉快になったが、詳しく話を聞いて、「書く方が面白い」という意味だと気づいた。
- ② 友人が面白いからと薦めてくれた作品を数冊読んでみたが、面白いものも面白くないものもあり、相手の多岐にわたる本の選択の広さに感心した。
- ③ 自分が大ファンである小説家のことを、友人が「あの作家の作品はつまらないね」と言ったので、それ以来小説に関する話をしないことに決めた。
- ④ 友人と自分とは性格も好みも正反対に近く、時に嫌な思いをすることもあるが、読書という共通の趣味があるおかげですつと交流が続いている。
- ⑤ 図書館でたまたま手に取ったある作家の作品は面白くなかったが、何作か読んでみるうちにその魅力が分かってきて、今では大ファンになった。

問4 傍線部(2)「抽象的に人を見る人」とは、どのように人とき合うのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

8。

- ① 嫌いな人から自分のためになることを学ぼうとする。
- ② 嫌いな人の良いところを見つけて好きになろうと努める。
- ③ 好き嫌いよりも、利益になるかどうかでつき合う人を決める。
- ④ 人を見るとときに、好き嫌いという観点を持ちこまない。
- ⑤ 興味が持てれば、嫌いな人とき合うことも避けない。

問5 傍線部(3)「『あ、それだ』と気づく」とあるが、どのようなことに「気づく」のか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、9。

- ① 示されたものの形が、ボールによく似ていること。
- ② 示されたものが、自分の目的にとって有用であること。
- ③ 示されたものが、ボールよりも役に立つこと。
- ④ 自分が探していたものが、ボールではなかったこと。
- ⑤ バールでは自分の目的が達成できないこと。

問6 傍線部(4)「抽象的思考をする人」は、「情報」に関してどのような態度をとることができるか。筆者は述べているか。理由とともに、「〜ことができる。」という形で、四十五字以内で説明しなさい。解答番号は、10。

問7 傍線部X「期せずして」、Y「一本調子」という語句について、本文における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 11、Y 12。

X 期せずして

11

- ① 約束していなかったのに
- ② はっきり分かるわけではないが
- ③ 思った通りにはならなくて
- ④ そうしようと思わなくても
- ⑤ 本当は望んでいないのだが

Y 一本調子

12

- ① 統一感があって美しいさま
- ② 変化や柔軟性が乏しいさま
- ③ 形式的で冷淡であるさま
- ④ 見た目は良いが中身がないさま
- ⑤ 単調でやりがいがないさま

問8 空欄 B に入る最も適当な言葉を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、13。

- ① 働く意味を考えなさい
- ② 笑顔で挨拶しなさい
- ③ 丁寧な言葉を使いなさい
- ④ お客様を大事にしなさい
- ⑤ お客様の目を見て話しなさい

問9 次の文は本文の一部である。どこに入れるのが最も適当か。本文中の 

I
---

V
---

 の中から一つ選びなさい。解答番号は、

14
----

。

これは人間ではなく、ロボットだってできることだ。

- ① 

I
---

  
② 

II
----

  
③ 

III
-----

  
④ 

IV
----

  
⑤ 

V
---

問10 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、

15
----

。

- ① 人間はシンプルなパーツの集合体であり、その人が持つ「深さ」は、パーツを組み込む「型」の大きさで決まる。
- ② 人を見て簡単にモデル化できると思うのは、見る目が浅く、相手の行動や考えの抽象化が不十分だからだ。
- ③ 抽象的に人やものを見ることで、それらが持つ自分にとっての利益や本当の価値を捉えることができる。
- ④ 自分から売り込まなくても他人から信頼されたり親しまれたりしやすい人は、抽象的な思考ができる。
- ⑤ 接客マニュアルは店員の理解力や人間らしい有能さを損なうものなので、抽象的な指示に変わすべきである。

## 問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(注1)  
岡本太郎の「反弁証法」(＝対極主義)は、太郎自身がヘーゲル研究やいろんな講義を通じて弁証法を理解しつつも、そこに納得のいかないものを感じたところから始まります。パリに残り、ヨーロッパ精神の真ん中で自分ができることを死ぬまでやろうと決心した時に、彼は自分にこう問います。自分が目指してきた美術とは西洋で生まれたものであって、その西洋の根幹にある精神を理解せずして、どうして芸術ができようか。根本的な精神を理解しないまま技術だけ習得しても単なる手習いに過ぎず、精神にはまったく響かない。自分はまず技術以前に、その精神を修得しようということ、彼はパリ大学ソルボンヌ校で、哲学と民族学と精神病理学の修得に打ち込みます。その中で、キリスト教によく似た論理や、ローマ帝国以降のキリスト教の精神を含みつつ、終極へと向かう歴史の進歩や発展といったものをヘーゲルの哲学に見るわけです。しかし、太郎の中にはこうした発想にどうしても納得のいかないものがありました。それは、彼が日本で生まれたことにも関係があったかも知れません。

(1) 太郎はこれに対決しようと、バタイユらと考えます。先ほど述べた「正反合」は、テーゼとアンチテーゼがぶつかり合うことで生じる矛盾を乗り越えていく歴史の弁証法です。しかし太郎は、これ乗り越えたように見えても、それで矛盾が消えるわけではなく、そこには何かごまかしのようなものがあると考えます。そして、進歩や発展という言葉では決して解消されない、根源的な矛盾を目の当たりにするのが、芸術の最も根源的な営みだという考えに至ります。ヘーゲルの「合」に反して太郎は、相反する要素がぶつかり合って総合されることなく「爆発」し、解消されない緊張状態が生じることが、芸術にはとても重要だと考えるようになったのです。

美や調和はヘーゲル的な安易な「合一」の受け入れであり、その内側に元来横たわる矛盾から目をそらす行為であるということで、彼は後に「今日の芸術は、うまくあつてはならない、きれいであつてはならない、こちよくあつてはならない」と唱えます。ア、ヘーゲルの弁証法の「合一」

に対する「否」として「爆発」があつたのです。太郎が「爆発」という言葉をいつから使つたのかは定かではありませんが、六〇年代後半にはすでに散見されて、その際に彼は、「爆発」といつても何か物がバーンと破壊されるようなことではなく、イ 透明な中でスーツと空間が広がっていく」というふうに言っています。言い換えると、進歩や発展のような美しい言葉の奥底に、あらゆる矛盾が解消されずに沸々とわきたっている、そういう世界を「爆発」と呼んでいたようです。彼は、進歩や発展ではなく、歴史の根源にある消せないもののほうを重視したのです。「対極主義」にあるこの「爆発」の発想と、後に「芸術は爆発だー」と唱えたパフォーマンスとの間には、実践にまつわるスタイルの違いはあれど、(2) 根本的な発想において通底するものがあると思います。

問題は、なぜ岡本太郎が「対極主義」という言葉を捨て、身をもってするパフォーマンスに移っていったかです。七〇年代以降の日本は高度成長が終焉を迎え、あらゆる知識がクリエイティブに生産されるのではなく、記号として消費される時代に移ります。八〇年代以降、さらに急速にそれは進むわけですが、太郎はそのとば口を恐らく一九七〇年という分岐点に見て、単に知識人の言葉で啓蒙

するのではなく、自らも身をもって実践し、資本主義の流通の中で、もの凄（まじ）いスピードで消尽されることに賭けたのではないかと思えます。実際、「対極主義」という言葉はいかにも知識人の言葉ですが、太郎はそうしたスタイルをある時期から無効とみなしたのではないのでしょうか。この賭けは短期的には完全に失敗し、芸術家としての評価を失いますが、二一世紀までの射程で見た時、実は「芸術は爆発だ！」という言葉によってこそ、岡本太郎の存在が長く語り伝えられる状況が生まれたのではないかと思えます。

さて、太郎はさまざまな形で「対極主義」の実践を行います。その最大の実践が一九七〇年の日本万国博覧会（通称「大阪万博」）でした。それが《太陽の塔》と、日本の戦後を代表する建築家・丹下健三（一九一三―二〇〇五）の「大屋根」と呼ばれる構造体との対決です。大阪万博には二つの中心がありました。一つは丹下がプロデューサーを務めたシンボル・ゾーンで、とりわけ「お祭り広場」に地上からの高さ三〇メートルを超えて架けられた巨大な屋根、通称「大屋根」です。が、これは実際には屋根ではなく居住空間でした。七〇年当時から見た未来、つまりちようどいま頃には、二一世紀の人間は空中に住むだろうという発想がありました。大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」ですから、その理念に極めて忠実なモダニズムの A として、丹下はそのような構造体を二一世紀に先駆けて提示したのでした。

もう一つは太郎が手懸けたテーマ館です。実は《太陽の塔》は、当時は地下と空中をつなぐエスカレーターシャフトを包む通路で、巨大なテーマ館の一部にすぎません。それを七〇メートルにも拡張して大屋根に穴を開け、突き立てることで、太郎は「人類の進歩と調和」というテーマを担うことを期待されていたにも関わらず、そのようなものは、近代の内側に潜む矛盾を覆い隠す幻想でしかなく、人類は進歩なんかしていないんだと主張したのです。むしろ万博には純粋な消費（＝消尽）の祭りとしての、あらゆるものを無に帰する「ベラボーパーなもの」が必要とされているとして、万博会場のど真ん中で反万博的なものを突きつけることを考えました。

このように一方は進歩を唱え、他方は進歩なんてないと言う、まったく矛盾した二つを同じ場所ですくろさせることが太郎の実践であり、<sup>(3)</sup> 万博という国家の祭りの中心で、容易には解消できない矛盾を一気に「爆発」させることが彼の目論見だっただと思われれます。「進歩と調和」に対して「贈与と消尽」を対置し、すべてを使い尽くしてご破算にしようとする祭りの中で無化させるわけです。

当時の様子からは、ちようど水平軸に丹下健三の空中都市があり、それに対して垂直方向に屹立している《太陽の塔》が窺えます。太郎は、この二つの巨大な軸が矛盾したまま交差する「対極主義」的な状況を作ろうとしたわけです。いまは皮肉なこと、未来都市のモデルとして作られた空中都市は <sup>(a)</sup> ロウキキュウ化して解体され、未来をまったく考えなかった《太陽の塔》が永久保存されることになりました。太郎はこれを残すつもりは全然なかったのですが、現在の万博記念公園を見ると、何か国家の一大イベントのシンボリックな塔が記念碑的な意味合いで作られたように見えます。が、実際には、これは対極的な状況を一時的に作るべく、万博のシンボルである「大屋根」に差し込まれた「否！」の一撃だったのです。ですから、I

丹下健三が当時考えた空中都市は「メタポリズム」という当時の <sup>(b)</sup> シチヨウに基づいています。こ

の発想は名前からも分かるように要は「新陳代謝」ということで、西洋のように建築とは都市の中に堅牢に築かれた礎ではなく、むしろ(c)ヒンパンに形が変わったり、細胞のように増殖したり体外に排出されたりしながら、生命体のように都市を覆い尽くしていく有機体で、それが二一世紀の新しい環境となることを唱えました。この「メタポリズム」の実際の仕掛け人は、丹下の右腕として活躍した浅田孝(あさだ たかし)(一九二二―一九〇)という人物です。彼がこのような住環境が重要だと考えた背景には、一九四五年に海軍将校として広島原爆跡地を目撃し、救助に携わった体験が関係しています。浅田は、いつ核戦争の危機にさらされて消滅するかわからないという冷戦期に特有のカタストロフへの意識から、これからの都市計画家はそのような宿命を前提に、B都市を築くのではなく、一種の有機体として存続していく道を探るべきだと考え、そのためには新しい「環境」が重要だと唱えます。実は彼は、「環境」という言葉を一般化させた人物でもあるのです。「環境」という言葉は、一九六〇年の「世界デザイン会議」の(d)カイサイ(この事務局長を務めたのも浅田でした)に前後して「メタポリズム」と結びつけられ、後に、いまの私たちが知る概念に変化していきます。「環境」という言葉は、もともと戦時中に帝国日本が西洋の建築思想を乗り越えるために、構築ではなくゆるやかに異質なものを繋げて場を覆っていくものとして、丹下らによってすでに使われていました。その概念が戦後、浅田を介して大阪万博の「大屋根」に繋がるわけです。《太陽の塔》は、その全てに対し岡本太郎が突き付けた「ベラボーなもの」という無為の概念だったのです。

こうして太郎が戦後に立ちあげ、他界後の再評価に至るまでの(4)「対極主義」の実践としての「爆発」をさまざまな側面から見ると、そこにはいわゆる戦後美術史だけでなく、建築や環境、テクノロジ、世界の破局、西洋思想の(e)チヨウコクなど、実に多様な要素が流れ込んでいます。ところが、これらを単純に美術史で切り取ってしまうと、そうした背景が全部そぎ落とされてしまうわけです。逆に言えば、こういうところにこそ芸術人類学の芽生える余地があるのではないのでしょうか。その意味では芸術人類学には、このような岡本太郎の実践を引き継いで、世紀を超えた新しい芸術を切り開く可能性があるのではないかと思います。

(榎木野衣「爆発、丸石神、グランニギニョルな未来」／『芸術人類学講義』所収)

(注1) 岡本太郎……洋画家、芸術家(一九一―一九九六)。現代芸術の旗手として多くの話題作を発表した。

(注2) ヘーゲル……ドイツの哲学者(一七七〇―一八三一)。

(注3) 弁証法……哲学用語。ここではヘーゲルの唱えた理論を指す。

(注4) バタイユ……フランスの思想家、作家(一八九七―一九六二)。

(注5) 先ほど述べた「正反合」……本文の前で筆者が述べた、ヘーゲルの弁証法のこと。(注5)

直後の「テーゼ」は「正」、「アンチテーゼ」は「反」にあたり、矛盾を乗り越えること(合)で歴史が進歩・発展すると説いている。

(注6) カタストロフ……カタストロフィのこと。悲劇的な結末を意味する。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 16、(b) 17、(c) 18、(d) 19、(e) 20。

(a) ロウキユウ

16

- ① この絵画はフキユウの名作である。
- ② キユウクツな姿勢をとる。
- ③ 多くの知識をキユウシユウする。
- ④ 事態がますますフンキユウする。
- ⑤ 道路のフツキユウ作業を始める。

(b) シチヨウ

17

- ① 山頂からのチヨウボウを楽しむ。
- ② 時代のチヨウリュウウをつかむ。
- ③ シチヨウして購入を決める。
- ④ 高原のセイチヨウな空気を味わう。
- ⑤ 罪人にチヨウバツを加える。

(c) ヒンパン

18

- ① 白砂のカイヒンを散歩する。
- ② 外国からヒンキヤクを迎える。
- ③ ヒンコンから人々を救う。
- ④ 地震が発生するヒンドを調べる。
- ⑤ 彼はビンワンな雑誌記者だ。

(d) カイサイ

19

- ① 岩石をダイナマイトでハサイする。
- ② ようやく大きなフサイを返済する。
- ③ 貸した本を返すようサイソクする。
- ④ 審判団が協議してサイテイした。
- ⑤ サイシヨウとして大国を治める。

(e) チヨウコク

20

- ① 昔からコクモツを主食としてきた。
- ② 活動の様子をコクメイに記す。
- ③ 肉体をコクシして労働に励む。
- ④ もはやイッコクを争う状況だ。
- ⑤ ケイコクを清らかな川が流れる。

問2 傍線部(1)「太郎はこれに対決しようと、バタイユらと考えます」とあるが、岡本太郎が対決しようとしたものは何か。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、21。

- ① 美術を目指すためには西洋的な精神を理解しなければならないという自分の思い込み。
- ② 自分が目指そうとしている日本の美術とは相容れないヨーロッパの根本的な精神。
- ③ 自分がこれまで学んできた哲学や民族学、精神病理学と対立するヘーゲル哲学の発想。
- ④ 歴史は矛盾を乗り越えながら進歩・発展していくものだとするヨーロッパ的な考え方。
- ⑤ ヘーゲルの哲学をすんなりと受け入れることを拒んでいる自分の中の日本的なもの。

問3 空欄 ア・イに入る最も適切な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、ア 22、イ 23。

- ア 22 ① つまり ② たとえば ③ しかし  
④ あるいは ⑤ そのうえ

- イ 23 ① ないしは ② いわんや ③ ですから  
④ あたかも ⑤ むしろ

問4 傍線部(2)「根本的な発想」とは、どのような考え方か。「芸術」「歴史」の二語を用いて、「  」  
考え方。」という形で、四十字以内で説明しなさい。解答番号は、24。

問5 空欄 A・Bに入る最も適切な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、A 25、B 26。

- A 25 ① 一元化 ② 普遍化 ③ 具現化  
④ 組織化 ⑤ 偶像化

- B 26 ① 無為の ② 不変の ③ 排他的  
④ 画一的 ⑤ 未知の

問6 傍線部③「万博という国家の祭りの中心で、容易には解消できない矛盾を一気に『爆発』させること」とあるが、その具体的な説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、27。

- ① 水平軸に沿って存在する「大屋根」に、垂直方向に立つ《太陽の塔》を加えることで、「人類の進歩と調和」だけでなく、純粋な消費の祭りという万博の理念まで表現すること。
- ② 「人類の進歩と調和」という万博の理念を表現している巨大なテーマ館の「大屋根」に、《太陽の塔》を突き立てることによって、「対極主義」という名の純粋な消費を実現すること。
- ③ 巨大な「大屋根」とそれを突き破る《太陽の塔》を創造し、両者の相互作用によって、「人類の進歩と調和」という万博の理念を打破し、近代の内側に潜む矛盾を消滅させること。
- ④ 万博の理念「人類の進歩と調和」を表現する「大屋根」に対抗し、「贈与と消尽」を表現する《太陽の塔》を作ること、相容れないもの同士が共存する状況を現出させること。
- ⑤ 巨大なテーマ館によって「人類の進歩と調和」という万博の理念を表現しつつ、《太陽の塔》によって「贈与と消尽」をも表現して、近代の内側に潜む矛盾をあらわにすること。

問7 空欄

I  
28

に入る一文として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は、

- ① これは「爆発」のあとに残された残骸ではなく、永遠に残るであろう万博のモニュメントと解釈するべきだというのが私の考えです。
- ② これは万博のモニュメントというより、そのような「爆発」が起こった焼け跡の記念碑として考えるべきだというのが私の考えです。
- ③ これは国家によって保存されているにも関わらず、国家に対抗する個人の思想の記念碑と見るべきだというのが私の考えです。
- ④ これは国家の権力とそれを否定する個人の意志との間に生じた「爆発」が、今も続いていることを表すものだというのが私の考えです。
- ⑤ これは未来に残そうという意図のないものこそが未来に向けて存続できるといって、一つの逆説を表しているというのが私の考えです。

問8 傍線部(4)「『対極主義』の実践としての『爆発』」とあるが、その具体的な説明として**適当**でないものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、29。

- ① 進歩や発展といった美しい言葉の奥底にある矛盾を表現すること。
- ② 資本主義の流通の中で消尽されるようなパフォーマンスを行うこと。
- ③ 一九七〇年の日本万国博覧会の会場に《太陽の塔》を打ち立てること。
- ④ 相反する要素がぶつかり合う緊張状態を表現しようとする事。
- ⑤ 生命体のように絶えず変化・増殖していく都市環境を実現すること。

問9 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、30。

- ① 芸術人類学の視点を取り入れることによって、これまで美術史ではとらえきれなかった岡本太郎の芸術の背景を明らかにすることができる。
- ② 浅田孝は、一種の有機体として存続するような都市を作り上げるためには、「環境」という言葉を一般化させることが必要だと主張していた。
- ③ 岡本太郎が「対極主義」という言葉を捨ててパフォーマンスに移ったのは、知識が記号として消費される時代の到来を察したからだと考えられる。
- ④ 岡本太郎は、「対極主義」という言葉にこだわったことで一時は芸術家としての評価を失ったが、その後のパフォーマンスで再評価された。
- ⑤ 生命体のように都市を覆っていく建築の実現には新しい環境が必要だというのが、大阪万博が開かれたころの「メタボリズム」の考え方である。

# 国語 (20220206) 解答一覽

大問	小問	解答 番号	正解
I	問 1	1	③
		2	①
		3	②
		4	②
		5	⑤
	問 2	6	②
	問 3	7	③
	問 4	8	④
	問 5	9	②
	問 6	10	記述問題
	問 7	11	④
		12	②
	問 8	13	④
	問 9	14	①
	問 10	15	③
II	問 1	16	①
		17	②
		18	④
		19	③
		20	②
	問 2	21	④
	問 3	22	①
		23	⑤
	問 4	24	記述問題
	問 5	25	③
		26	②
	問 6	27	④
	問 7	28	②
	問 8	29	⑤
	問 9	30	③